「郷土の鎌倉街道を歩いて」

◎リーダー　○サブリーダー

◎髙杉　信幸
柴崎　慎一
小俣　万里子
○利根川　芳則
沢田　正義
織田　美枝子
木沢　静枝
釜田　典男
河野　眞由美
北村　雪枝
○岡野　一い
高橋　勉

きらめき市民大学　第 12 期郷土学部 B 班

∝⊃∽⊂∞∝⊃∽⊂∞　　目　次　　∞∝⊃∽⊂∞∝⊃∽⊂∞

Ⅰ．課題研究テーマの選定

Ⅱ．鎌倉街道・上道についての概要

Ⅲ．わが郷土の上道全体図

Ⅳ．活動記録

Ⅴ．活動内容

a．鎌倉探索
b．毛呂山・川角探索
c．泉福寺・三門館跡探索
d．嵐山・笛吹峠探索
e．菅谷館・班渓寺探索
f．伊勢根遺構・畠山公園探索
g．森林公園内古道探索
h．比企一族ゆかりの地探索

Ⅵ．時代背景

Ⅶ．まとめ

＊＊＊　参　考　資　料　＊＊＊

Ⅰ．課題研究テーマの選定

わが郷土の「いざ鎌倉」は、どの街道をどこの武将が鎌倉を目指して馳せ参じたか、当時の歴史的背景を学習し比企地方の歴史と重ねながら街道を訪ね歩く。

Ⅱ．鎌倉街道・上道についての概要

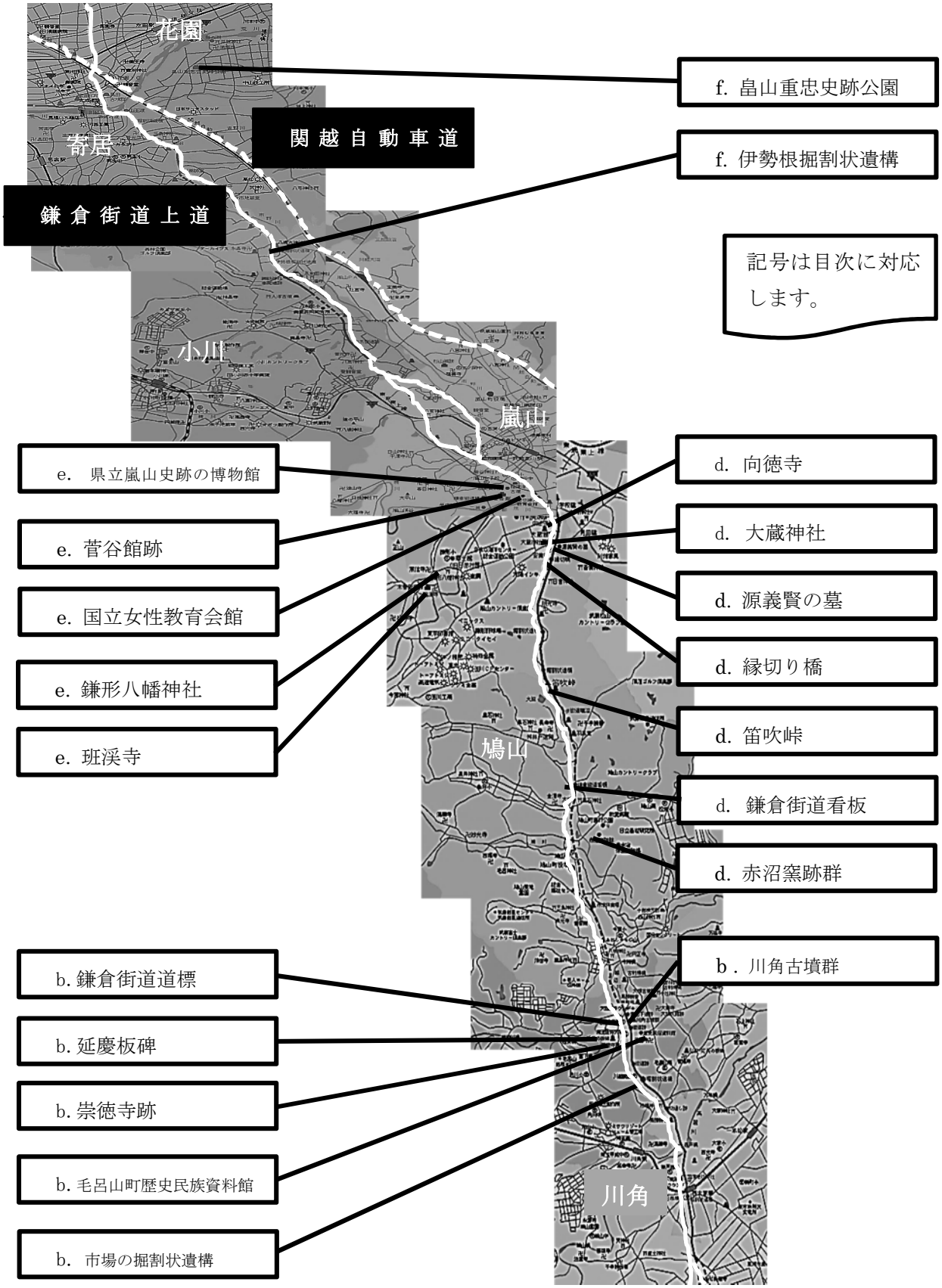
源平の合戦を制した源氏の棟梁・源頼朝は、関東武士団をまとめ三方を山に囲まれ一方は海に面した要害の地、鎌倉に幕府を開いた。関東における鎌倉時代の交通は、河川を利用した舟運の発達もみられるが、奈良時代以降に整備拡充された官道をもとにしたものが主であった。なかでも鎌倉幕府の成立後、鎌倉が東国の政治の中心となると、鎌倉と関東各地を結ぶための道が整備され“いざ鎌倉”という際の軍事目的だけでなく、商品流通の「道」としての役割も増していった。

鎌倉街道という名称は、江戸時代に編纂された文献に記載されている。しかし、鎌倉時代の史書である『吾妻鏡』には「奥大道」「下道」、また南北朝時代の『太平記』には「上道」「下道」などとあり、当時の呼称を知ることができる。すなわち《鎌倉街道》という呼び方は、江戸時代以降になって使用されたものであり、時期的には鎌倉時代のみならず、それ以降の南北朝から室町時代にかけて整備・利用された「古くからの道」を総称している場合が多い。

鎌倉街道の主要幹線は三本の道①「上道」(かみつみち)、②「中道」(なかつみち)、③「下道」(しもつみち)である。「上道」は鎌倉から東京都東村山市・埼玉県所沢市を経て毛呂山町・嵐山町などの県西部を縦断して児玉町を通り群馬県藤岡方面に向かう道である。「中道」は埼玉県川口市から岩槻を経て茨城県古河方面に向かう道である。「下道」は千葉県から茨城県太平洋沿岸を北上する道である。

私達は三本の道の内、特に郷土・東松山近くを通る「上道」について調べた。その実態については、近年の都市化などにより正確な道筋を辿ることは困難な状態であり、地誌や伝承など僅かな資料によってしか辿ることのできない「幻の道」となっている。「上道」の歴史的検証については先達の歴史家・郷土史家たちの調査・研究に委ね、その文献資料を基に古（いにしえ）の人たち・武将に思いを馳せながら名所・旧跡・遺構を自分達の脚で訪ねることにした。

Ⅲ. わが郷土の上道全体図　（川角から花園まで）



Ⅳ.活動記録

No	月/日 曜日	活　動　場　所	内　　容	記号
1	1/23㊍	郷土学部教室	班構成、役割分担、テーマ選定	
2	2/20㊍	郷土学部教室	日程、課題研究の焦点の絞込み	
3	3/20㊍	健康福祉学部教室	雨天で嵐山・笛吹峠コースの探索中止、今後の予定を確認	
4	3/27㊍	嵐山・笛吹峠コース 雨天決行（電車、バス）	武蔵嵐山駅→向徳寺→大蔵館跡→源義賢の墓→縁切り橋→笛吹峠→鳩山窯跡	d
5	4/ 3㊍	鎌倉コース 雨天決行（電車）	北鎌倉駅→亀ヶ谷坂→寿福寺→鶴岡八幡宮→妙本寺→元鶴岡八幡宮→鎌倉駅	a
6	4/ 9㊌	健康福祉学部教室	写真をチェックし今後の進め方の確認 岡田潔先生講義：八王子千人隊と上道の話	
7	5/19㊊	森林公園・毛呂山コース（自動車）	森林公園→滑川町和泉→鎌形八幡神社→班渓寺→鎌倉街道掘割遺構	gc eb
8	5/29㊍	毛呂山歴史民族資料館と嵐山史跡の博物館（自動車）	鎌倉街道→川角古墳群→崇徳寺跡→延慶板碑→毛呂館→国立女性教育会館→菅谷館跡散策	be
9	6/19㊍	大谷・串引き沼コース 猛暑決行　（自動車）	串引き沼→比丘尼山横穴群→宗悟寺→金剛寺	h
10	7/10㊍	郷土学部教室 台風により予定変更	研究テーマと報告書のレイアウト確認	
11	7/31㊍	深谷・畠山重忠史跡公園コース（自動車）	杉山城跡→伊勢根の街道遺構→畠山重忠史跡公園→弘光寺	f
12	8/ 7㊍	郷土学部教室	原稿の出し方確認	
13	8/28㊍	郷土学部教室	掲載写真の選定	
14	9/ 4㊍	郷土学部教室	まとめ、基本資料の確認	
15	9/25㊍	郷土学部教室	まとめ、原稿の添削	
16	10/23㊍	郷土学部教室	まとめ、原稿の添削	
17	11/ 6㊍	郷土学部教室	まとめ、原稿の添削	

Ⅴ.活動内容

a. 鎌倉探索　　4 月 3 日（木）移動距離：229Km

亀ヶ谷坂

寿福寺

北条　政子の墓

鶴岡八幡宮

辻説法跡

比企谷幼稚園

妙本寺

元八幡宮

比企一族の墓

一幡の袖塚

亀ヶ谷坂（国指定史跡）

ここから鎌倉入りした。13 世紀中ごろは整備されていて、両側が岩壁の切通になっている。江戸時代には、「鎌倉七口」の１つに数えられるようになった。

寿福寺（国指定史跡）

臨済宗。義朝の居館跡で政子が栄西を開山として建てた。実朝・政子の五輪塔（岩をくり貫いた中に祀られていた）が祀ってある。お寺の境内には入れなかったがビャクシンの木は見られた。

鶴岡八幡宮

雨の中でも混んでいた。水辺に映る桜が満開で、もう少しゆっくりと散策したかった。雨がとても残念。

日蓮上人辻説法跡

通り過ぎそうな道端にあった。

比企谷幼稚園

幼稚園の名前に比企がついているのには驚いた。この近くに流れている川も滑川（なめりがわ）といい、わが郷土との繋がりが深かったことがわかる。

妙本寺

日蓮宗本山。比企館跡で開山は日蓮上人。
比企能員らの屋敷があったが、比企の乱で滅ぼされ末子の能本（よしもと）が法華堂を建てた。実朝や政子の墓より立派に祀られている様に見える五輪塔だった。ちょうどお参りした時、春雷が鳴り「よく比企から参ったな・・・」と言っているようだった。本堂から眺めると比企一族の墓、一幡の袖塚が一望でき、雨にけむる桜とともにすばらしい景色だった

元鶴岡八幡宮（由比若宮）

源氏の守り神を祀ってある。雨足が強く、半数のメンバーで行くことに・・・。こぢんまりとしているが、重厚な気配がする神社。他に１組の数人しかおらず、私たちの写真を撮っていただく。１日中雨、皆びしょ濡れ！

エピソード１　ランチ「かなえ」

ちょっと見つけにくい場所で、ウロウロしてしまった。今日水揚げされた魚で、何のお刺身かお楽しみの定食の予約だったが、前日チリ地震があり、漁にでられないため普通のお刺身になってしまったが、とても新鮮だった。
写真は隣のお客さんの大名御膳！　ついパチリ！

b. 毛呂山・川角探索　5 月 19 日（月）移動距離 31km
5 月 29 日（木）移動距離 31km

市場の掘割状遺構

林中の凹道は珍しく良く旧態を残していて、昭和 57 年県立歴史資料館によって試掘調査が行われた。堆積土の下に幅 5 メートルの旧道面があり両側には排水溝もあった。埋め戻されて今は旧道に大木が生えている。

川角古墳群

小さい古墳らしきこんもりした山がいくつもあった。

崇徳寺跡（町史跡）

武蔵野合戦で消失したが、現在も発掘調査中。

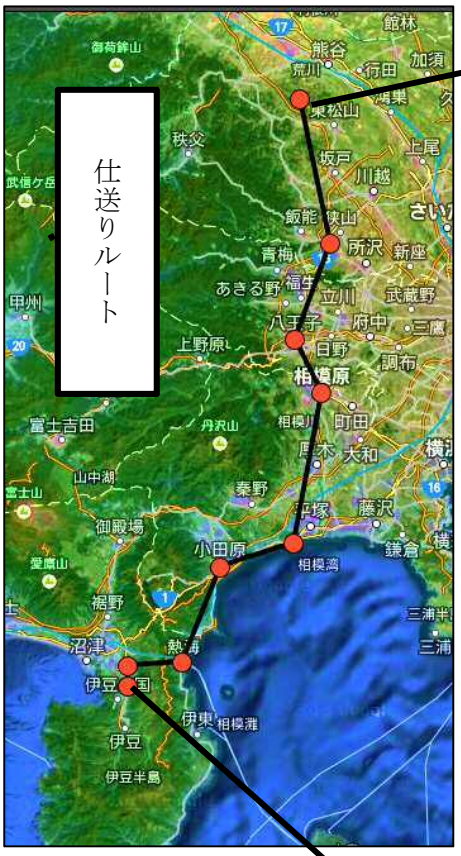
延慶（えんきょう）板碑（県指定文化財）

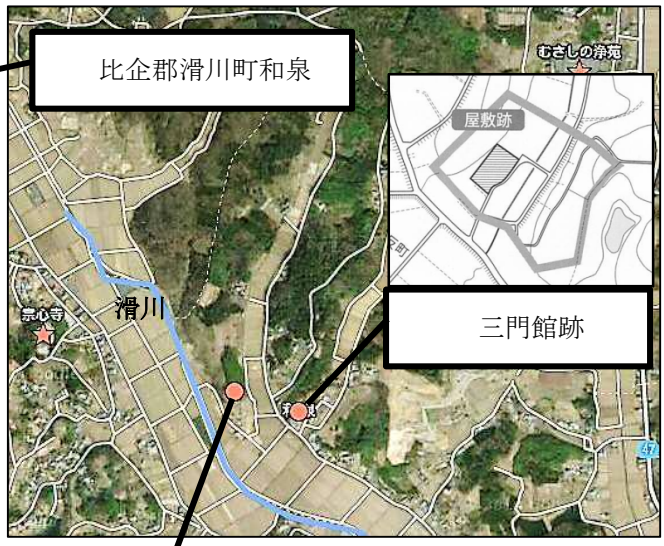
もとは崇徳寺跡にあり、昭和 37 年に移築された。胎臓界大日如来が刻まれている。

毛呂山町歴史民俗資料館

資料館が周辺も管理し、崇徳寺跡の発掘中であった。延慶板碑のレプリカ等があり展示類も充実していた。特に鎌倉街道の上道の展示が参考になった。

c. 泉福寺・三門館跡探索　5 月 19 日（月）　移動距離 38km





泉福寺（重要文化財）

新義真言宗。源氏ゆかりの阿弥陀如来坐像と両脇侍立像が保管されているが拝めなかった。

泉福寺板碑

漢文で何かの事跡が刻まれているが、判読が難しく、いろいろな解釈がある。

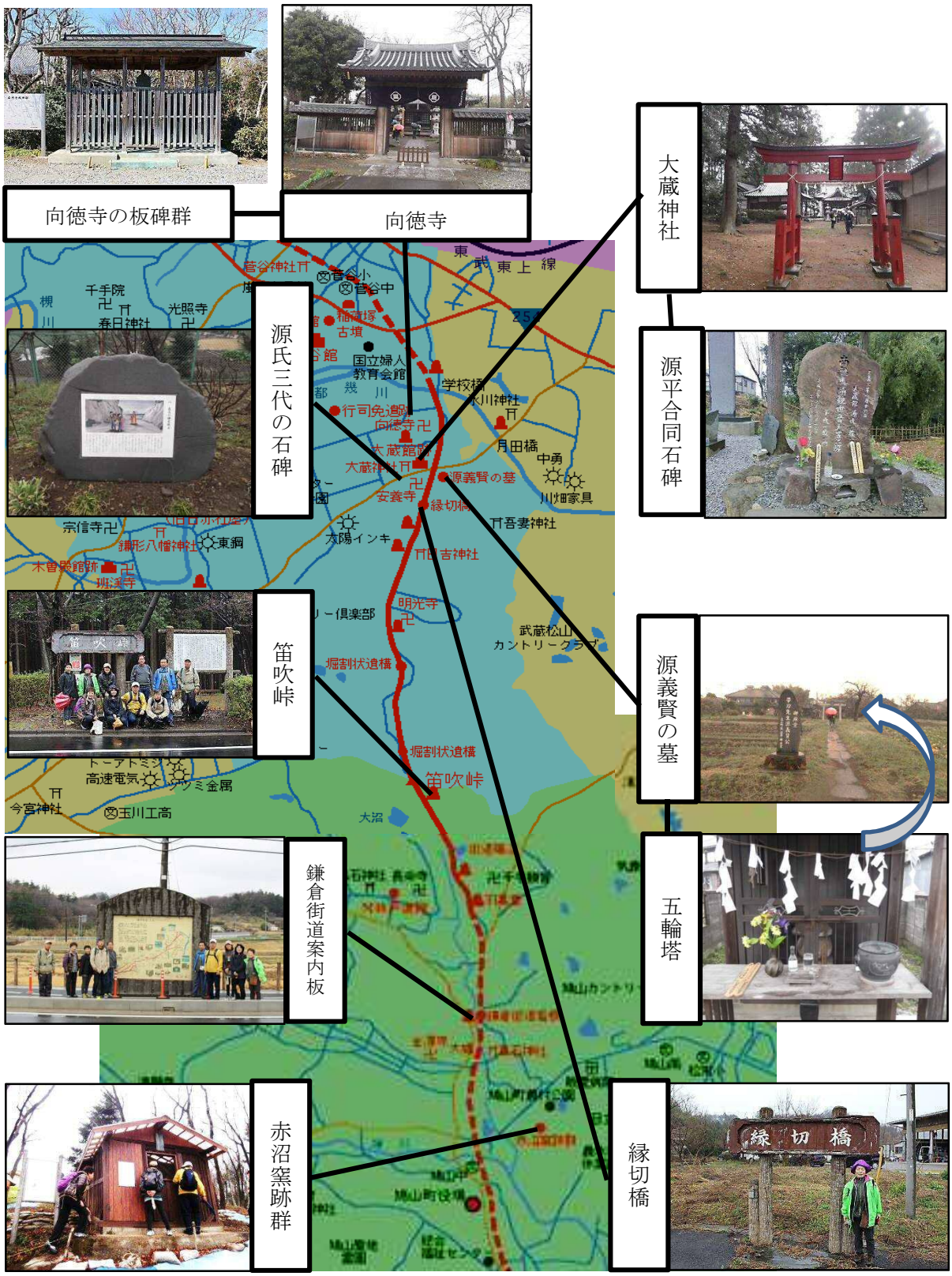
三門館跡

伝えでは五所五郎丸（頼朝の警護）が居住したところというが、比企一門、源氏ゆかりの地だろう。比企遠宗の館跡で比企尼が幽閉の頼朝に 20 年もの間、米や衣類を伊豆の蛭ヶ小島に送り続けたとされる。その田畑と比企の末裔の斎藤家を散策する。この辺り一帯は、鎌倉時代初期は毛呂氏の所領。館の脇を滑川が流れている。

考察

物資の仕送りルート（徒歩）：(比企郡→入間→八王子→相模原→大磯→小田原→熱海→函南→韮山)、距離：151km。米などの物資を背おっての箱根越えなどを考慮すると、所要日数は 7 日程度と推定される。

d. 嵐山・笛吹峠探索　3 月 27 日（木）　移動距離 19km



向徳寺（重要文化財・町文化財）

時宗。一遍が開いた浄土宗の一派。向徳寺板碑群（阿弥陀三尊種子板碑）が一箇所にまとめられて正門右横の小屋に納められていた。児玉党小代氏の小代（東松山市正代）で作られたらしいが詳細は分からない。前柵により板碑そのものの写真撮影ができなくて残念。

大蔵館跡（県史跡）

木曽義仲の父、帯刀先生源義賢が平安時代の末に上野国多胡より移り住んだ。館跡は大蔵神社の隣で方形館と考えられる。今は発掘調査が終り畑地となっている。

源平合同石碑

大蔵館跡と大蔵神社の中間道路沿いに置かれている。南無馬頭観音大菩薩・大蔵館源氏一族一門・平氏一族一門と、一つの石碑のなかに刻まれており、源氏と平氏は敵対していなかったものと推測される。

大行院の供養塔と絵石碑

立派な真新しい源氏三代の供養塔の石碑があり、物語が石板に描かれている。

源義賢の五輪塔（県史跡）

悪源太義平（頼朝の兄）に討たれる。墓は数度の火災にあっても消失せず現存する。畑のなかにありとても質素な墓だった。

縁切橋

坂上田村麻呂の言い伝え。奥州蝦夷征伐に向かう途中、悪龍退治を頼まれこの地に留る。都より追いかけて来た妻と縁を切り返した。

鎌倉街道案内板

鎌倉街道（上道）の みちすじが描かれている。

笛吹峠

東屋で雨を凌ぎながらお弁当。

赤沼古代瓦窯跡・石田国分寺瓦窯跡（県史跡）

古代の寺院の瓦を焼いた窯跡が多い。丘陵斜面の裾からの登り窯である。保存のため覆屋を設けている。

エピソード２

敬愛院の隣のカフェでホッと一息・・・。予定の坂戸方面のおしゃもじ山へは向かわずに、鳩山ﾆｭｰﾀｳﾝからバスに乗る。歩き出しはまだ降っていなくて、歩き出したと同時位に雨。でも午後はやっと雨は上がった。

e. 菅谷館・班渓寺探索　5 月 19 日（月）移動距離 16km

5 月 29 日（木）移動距離 16km

班渓寺

（伝）山吹姫の墓

埼玉県立嵐山町史跡の博物館

畠山重忠像

菅谷館跡

産湯の清水

鎌形八幡神社

鎌形八幡神社（町史跡）

木曽義仲（駒王丸）は 7 か所の清水を汲んで産湯にした。今も湧水が流れ出ている。

班渓寺

曹洞宗。山吹姫（義仲の側室・義高の母）が創建・・・小さな五輪塔があった。

嵐山史跡の博物館

ビデオ鑑賞：駒王丸の物語

武士の館：県内の鎌倉時代の館跡から出土した陶器等が展示

比企城館跡群：菅谷館跡・杉山城跡・小倉城跡・松山城跡の出土品を展示

菅谷館跡散策

畠山重忠像がある。畠山重忠が居住していた所で空堀や土塁が残っている。

f. 伊勢根遺構・畠山公園探索　7 月 31 日（木）移動距離 59km

伊勢根掘割状遺構

弘光寺西側の街道

畠山重忠墓

畠山館跡

杉山城址

杉山城址（国史跡）

戦国期城郭の中で最高傑作のひとつと高い評価を得ている。この山城の高台から鎌倉街道を見下ろし、監視するのが主な役割だった。

伊勢根の街道遺構（町史跡）

今も残る遺構。その遺構に立ってみると、草ぼうぼうではなく、クマザサ、ホトトギス、ヤブラン、マンリョウ等低い野草が足もとに・・・。また今までにないホッとする街道でいいところだった。

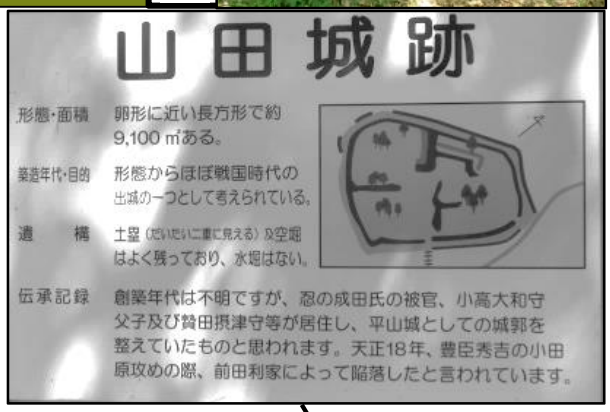
畠山重忠史跡公園

立派な五輪塔が祀られてある。子孫他たくさんの寄付で、鴨越の馬を背負った重忠の銅像があった。重忠は、頼朝が鎌倉に入る際先陣を務め、建仁 3 年（1203）北条義時に従い、比企一族の討伐に加わった。元久 2 年（1205）謀反の罪をかけられ、菅谷館から鎌倉へ向かう途中、義時率いる幕府軍に攻められて、最後を遂げる。静御前の歌舞に銅拍子で伴奏をしており、教養人としても知られる。

弘光寺西側の街道

お寺の前の参道が、鎌倉街道。舗装されているが、両脇に紫陽花が　植えてあり、鎌倉を忍ばせる。ここが、私たちがおとずれる鎌倉街道上道の一番遠いところになる。また、弘光寺の裏手にも無料の蓮園があって、みな熱心に鑑賞した。

g. 森林公園内古道探索　5 月 19 日（月）移動距離 8km



案　内　板

山田城跡（県重要遺跡）

忍城主成田氏の臣、贄田氏一族。松山城の出城という説もある。木で作った階段を上ると上は平らになっていて、空堀がそのままに良くわかる地形だった。

山崎城跡

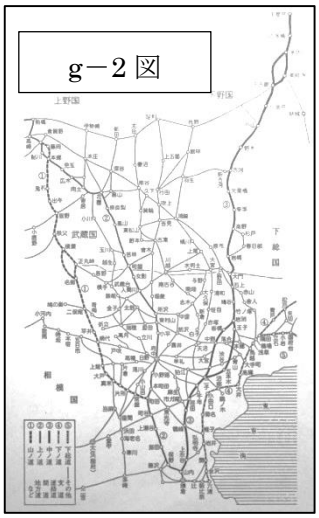
梅林一帯がそうらしいが良く分からず、反対側は雑木林で入れない場所だった。

（伝）鎌倉街道立札

関東武士が鎌倉に馳せ参じた古道と書かれている

補足説明≪鎌倉街道の枝道≫

鎌倉街道は主要となる「上道」「中道」「下道」のほかに「g－2 図」が示す通り間道や枝道が数多く存在する。そしてこれらの枝道も各地方で愛着をこめ鎌倉街道とよばれている。滑川町にある武蔵丘陵森林公園内にも鎌倉街道跡と伝える道がある。この道周辺には中世の城跡や板碑などが多く存在する。



考察　≪もう一つの鎌倉街道≫

森林公園に入るルート：

智光山公園→坂戸→東松山→南口

森林公園内のルート：

楕円に白抜きした箇所（「g－1 図」にあたる。）

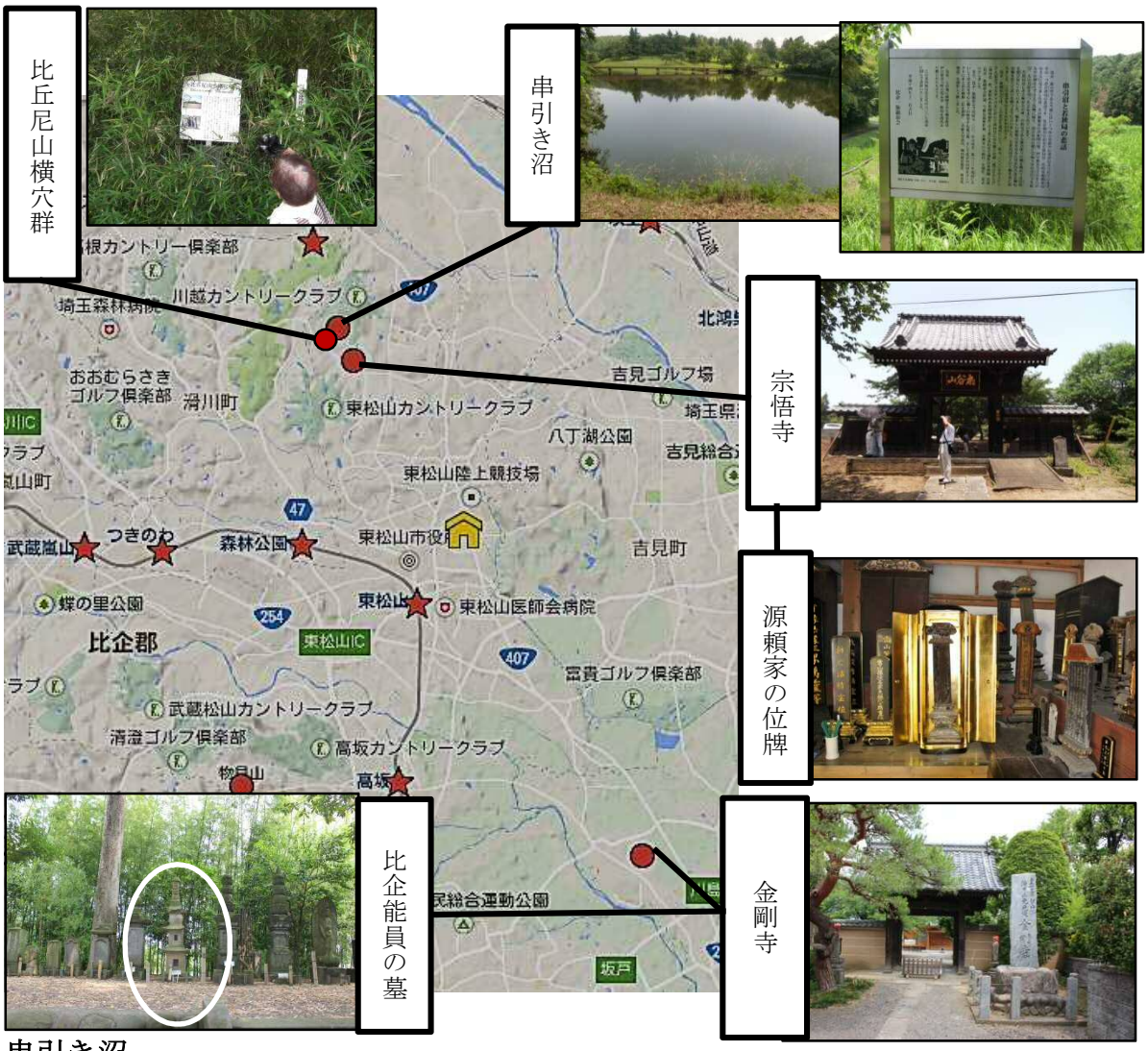
南口→山田城跡→山崎城跡→中央口→西口

森林公園を出るルート：

西口→滑川町土塩→熊谷市小江川→深谷市本田→寄居町今市で鎌倉街道上道に合流。

「g－3 図」の左側が本道の鎌倉街道上道で、右側がもう一つの鎌倉街道といえる。

h. 比企一族ゆかりの地探索　6 月 19 日（木）移動距離 25km



串引き沼

若狭の局が頼家への想いを断ち切るために、沼に櫛を投げ入れた伝承がある。良く見渡してみると、土手の反対側に葦の生えた草地があり、どうもそこが鎌倉時代の沼のようだと、皆の意見が一致した。

比丘尼山(びくにやま)

比企遠宗郡司の妻比企の局が、夫の没後尼となって草庵を結んだといわれる、女性的な美しい山。

宗悟寺

曹洞宗。（伝）比企能員の館と地元の言い伝えがある。現在は徳川の家臣であった森川家の五輪塔が祀られている。若狭の局が持ち帰った頼家の位牌が今に伝わっている。ご住職にお願いして拝観させていただいた。

金剛寺

真言宗。比企氏館跡。比企一族の子孫、政員・則員（1525～1616）が中興開基した。今に至るまで、比企の名を名乗り続けた末裔が、比企氏のお墓を守り続けたことに、驚きと感動！本堂も新しく立て替えて、まぶしいくらいだった。

エピソード３

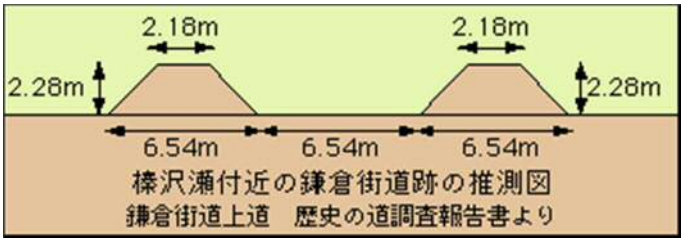
宗悟寺の本堂をお借りして、のり弁当を食べる。お茶まで用意していただき、外が暑かったので感謝感激です。

Ⅵ.　時代背景

ア）鎌倉街道の特徴

①なるべく平坦で最短距離を結び、そして高低差の少ない坂道を選び、部分的に曲がっていても全体としてみれば直線的な道である。②尾根や坂道では掘割状の凹道となり、台地や原野では道の両側に土手を築くことがある。③二里から三里の間に宿をもうけ、宿のあった辺りには社寺が多い。④宿の近辺以外は台地・微高地の尾根を多く通り、又河川流域の段丘を多く通っていることから、おのずと村と村の境界を通ることが多い。

イ）鎌倉街道の形状



探索した毛呂山町市場や小川町伊勢根に一致する。しかし、私たちが探索した街道跡と呼ばれる道は、ほぼ道幅は２～４メートルと狭い。鎌倉時代より 800 年も経過しており、作り変えられたり、廃道化し山林の中に埋もれたりしている。道として残っているものは農道や小道となり使用され続けている。

ウ）いざ鎌倉と馳せ参じた理由

頼朝は武士団がそれまで持っていた領地を保障することを「本領安堵」（ほんりょうあんど）、新しい領地を与えることを「新恩給与」（しんおんきゅうよ）という。このことを徹底した頼朝は，家来となった武士から「鎌倉殿」と呼ばれ信頼された。「鎌倉殿」の家来となった武士のことを「御家人」と呼ぶ。家人になれば自分の領地が他人からおびやかされることがなくなる。しかも戦の時にめざましい働きをすれば新しい領地を得ることも出来た。不安定

だった武蔵の武士団（豪族）の生活は、頼朝の出現によって安定し発展していった。武士はその見返りとして「奉公」したが、それはご恩があってのものだった。もし鎌倉に異変があれば、鎌倉街道を駆け足で「いざ鎌倉と馳せ参じる」。それに比べて、公家化した平家や二代目以降の鎌倉殿は、この御恩を徹底しなかったために滅亡した。

エ）探索で知り得た比企郡関連の場所と武将

班渓寺・鎌形八幡宮・大蔵館	帯刀先生義賢と駒王丸（木曽義仲）、悪源太義平、畠山重能
菅谷館跡・畠山重忠公園	畠山重能と畠山重忠
滑川三門・串引き沼・鎌倉・妙本寺	比企遠宗、比企禅尼、比企能員、若狭の局、源頼朝、源頼家、源範頼

オ）総領の跡取り教育

今回の探索では、この乳母の存在が歴史を左右していることがわかった。源義朝は 7 人、源義賢は 5 人の乳母を自分の子供につけた。

◆乳母の乳幼児教育（生後 1 週間～ 7 歳）：

信頼できる家来の妻に子供を預けると、その子供はその乳母の子供達と一緒に田畑を耕やし、魚も釣るし、狩りもでき、たくましく育てた。

◆お寺の教育（８～12 歳）：

この年齢になると子供をお寺に入れる。その当時のお寺の教育は、その後の足利学校に相当した。髪を剃って漢文を非常に重要と考え勉強させた。それで論語、孟子、三国志、春秋戦国の歴史を学び、それが終わってから、日本書紀、伊勢物語、源氏物語の勉強にはいる。

◆元服、総領家跡取りと初陣（13 歳）：

元服して総領家の跡取りと公認され、戦場に出られるようになる。

源頼朝は 13 歳で平治の乱に出兵し敗れ、伊豆の蛭ヶ小島に流される。

カ）一所懸命

鎌倉幕府が成立する前は、畠山重忠をはじめとする秩父一族のような豪傑的武士をのぞけば、武蔵武士の大部分は、中小規模の在地領主であったに過ぎず、彼らは自分たちの生活の基盤である所領の維持と拡大のために、みずから命を懸けて戦いに参加せざるを得なかったのである。かれらは一所懸命だったのである。現在の感覚からすると、武士の寝返りは卑怯と考えるが、このころの常識では、所領の維持と拡大のために勝組に加勢することは決して恥ずべきことではなかった。

キ）菅谷館と大蔵館は陸運と水運交差点

平氏の秩父一族は、武蔵国内における河川交通、水運を掌握して発展した。陸路である鎌倉街道の前身は、すでに国分寺瓦をはじめとする南比企の窯業の製品搬出路として存在したはずであり、大蔵の南となりにあたる将軍沢までが南比企窯跡群の範囲に含まれている。大蔵と菅谷の間を流れる都幾川は、同じく秩父山地の東縁部を縫って東流してきた槻川と直前で合流し、鎌倉街道上道と交差するこの辺りで流れも緩やかとなり川幅をひろげる。畠山重忠の菅谷館や大蔵館はここにあり、重要な場所に位置していた。

ク）平氏気質と源氏気質

平氏は水運を掌握した。河川での移動手段はもっぱら平舟で、船上での思考が、文化人を育み、オットリ型の官僚能力を育ておのずと公家化した。一方、源氏は陸運や牧（牧場）を掌握した。陸路での移動手段は棟梁を除けば家人はひたすら歩かねばならない。狩猟や田畑を耕さねばならず、また、耕作地の境界争いにも対処しなければならない。従って、肉体的な好戦的な武士となった。

●比企地方の武将はこの平氏気質を持った武将であり、人が良いため北条一族の謀略により滅亡する。・・・・・・・「畠山重忠の悲劇」

●源氏一族は親族であっても、上記ヵ）の一所懸命により争うこととなる。

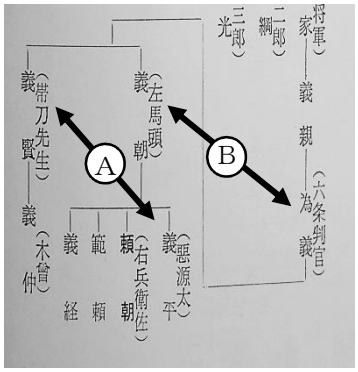
Ⓐ「大蔵の乱」1155 年：親戚対決

（勝）悪源太義平　vs（負）源義賢

このとき平氏の畠山重能は義朝の命令に反し義賢の子（駒王丸のちの木曽義仲）を逃がす。

Ⓑ「保元の乱」1156 年：親子対決

（勝）源義朝　vs（負）源為義、為朝



Ⅶ.　まとめ

「鎌倉街道・上道」にテーマを絞り、わが郷土の比企地方を計画的に順次探索しました。比企地方の武士が「いざ鎌倉」と馳せ参じるための本道やおのずとできた脇道や枝道、まさに「古の道」を訪ね歩きました。直線的な土製の舗装道路で、行軍時の目隠しや猛暑対策等がされ、いかに早く馳せ参じる工夫に関心させられました。現在の関越自動車道の一部がこの古道に沿っているのにも驚きました。地図もない時代、先人の知恵は凄いと思いました。私たちが何気なく使用して生活している道や近くに

あってもあまり行かなかった道が鎌倉街道であったこと、そして、その道を通過する比企地方は舌状丘陵地形をしており、昔から自然災害の少ない土地で実に沢山の史跡や物語が残っていました。鎌倉街道上道の課題研究をすすめるなかで、地元である東松山市についても再発見できました。それは「串引き沼、金剛寺」等の比企一族の伝承や菩提寺の存在です。そこで編集ポイントでは鎌倉街道上道の地図をベースとし、関連箇所の写真を貼り付け解りやすくしました。また、鎌倉時代の武士の考え方や行動指針も参考として書き添えました。今まで鎌倉街道に興味があった方も、そうでない方にも、楽しく読んでもらえれば幸いです。東松山の「歩け！歩け！」テーマになぞらえ、とにかく歩いた 73,000 歩（総探索日数：6 日間)。雨のなか傘をさしたり、猛暑にもめげず道なき道をかき分けながらの、この課題研究は汗と体力の結晶です。私たちにとって郷土を知る格好の研究となりました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　参　考　資　料　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

≪参考文献≫

『古道を歩く-鎌倉街道歴史探訪-』・・・・・・・・・・・・・・・埼玉県教育委員会
『改訂歩いて廻る「比企の中世・再発見」』・・・・・・埼玉県立嵐山史跡の博物館
『中世の道・鎌倉街道の探索』・・・・・・・・・・・・テレコン・トリビューン社
『比企遠宗の館跡』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・まつやま書房
『木曽義仲と武蔵武士』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・嵐山町先賢顕彰会
『畠山重忠物語』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・埼玉県立文化会館
『畠山重忠』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・滴翠社
『秩父平氏の盛衰』・・・埼玉県立嵐山史跡の博物館・葛飾区郷土と天文の博物館
『武蔵武士と戦乱の時代　中世の北武蔵』・・・・・・・・・・・・さきたま出版会
『鎌倉武士の実像　合戦と暮らしのおきて』・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社

≪インターネット≫

鎌倉街道・上道-ltscom.net
google マップ
鎌倉時代を勉強しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・玉川大学・玉川学園

≪博物館等施設≫

国営武蔵丘陵森林公園、国立女性教育会館、埼玉県立嵐山史跡の博物館
毛呂山町歴史民族資料館

≪講師≫

岡田潔先生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・東松山市文化財保護委員会委員長